

内職にノリミス編み

水俣病
一任派 機械はチツソが貸す

水俣病患者家庭互助会の補償処理二任派（六十六世帯）の人たちが、ノリミス編みの手内職を始め、このほどチツソとの話し合いもまとまり、チツソが編み機を貸し付ける。二十八日にまず七台が患者家庭に届く。これで技術講習を受けたあと、患者の病状の程度

や、家庭の事情によって編み機を借りることにしている。一枚六円の編み代で、普通百枚程度は編め「けっこう手内職になる」と山本互助会会長は言っている。

材料はチツソ開発がポリプロピレンをもとに生産している。特に最近ではノリミスの材料になるクマザサが牧場開発などによって少なくなりつつあり、材料不足となっている。またササに花が咲くなどして枯れているので、将来は化学製品のノリミスの需要は多いという。

工事中だったもの。六千六百平方メートルの敷き地に鉄骨スレート造りの二階建て（一部三階）千四百四十坪を建設した。機械ともに総工費七千三百五十万円、能力は日産百五十坪で、同町、牛深市、天草町のミカン三千百坪を対象としている。トラック積みそのまま計量するスケールやワックスかけ選別、包装まで全部自動で行なう。